

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Relationship of alcohol consumption and type of alcoholic beverage consumed with plasma lipid levels: differences between Whites and African Americans of the ARIC study. 飲酒量やアルコールの種類と血液脂質の関連について ARIC 研究による白人とアフリカンアメリカ人との相違について	
執筆者 Volcik KA, Ballantyne CM, Fuchs FD, Sharrett AR, Boerwinkle E	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Ann Epidemiol. 2008 Feb;18(2):101-7. Epub 2007 Sep 14	
キーワード アルコール、脂質、HDL、トリグリセライド、ARIC 研究	
要 旨 目的： 飲酒は血漿脂質に対してよい作用をもたらし、低度から中程度の飲酒が脂質に良い影響を与える事によって心疾患の発症を抑える事は既にと多くの研究で報告されている。そこでアルコールの種類が血漿脂質に及ぼす影響をその範囲と集団において調査することを目的とした。 方法： アルコール消費、特にアルコール飲料の種類による複数の脂質指標で、共同体の研究においてアテローム硬化症のリスクを調査する事とした。 結果： 我々は低度から中等度と、多量の飲酒の双方においてアルコールの種類に関係なく HDL コレステロール、HDL3 コレステロール、アポリポ蛋白 A1 が白人、アフリカンアメリカンの男女において有意に上昇するという結果を得た。 まとめ： 我々の結果はアルコールの種類に関係なく、HDL コレステロールは高くなり、主要な分画である HDL3 コレステロール、主要 HDL コレステロールのアポリポ蛋白、アポリポ蛋白 A1 HDL コレステロールも同様に高くなり、アルコールそのものの摂取が関連しているという既存の研究を再確認するものとなった。	